

社会学 2 の概要と視聴覚教材の活用

社会科教育・魁生由美子

1. 授業の基本情報・概要

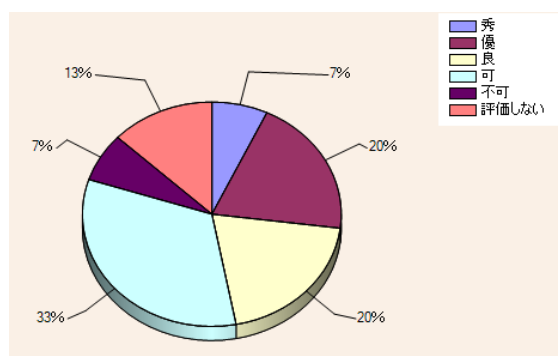
本授業の目的は、小・中・高の社会科関連科目の授業を構成するために必要な社会学理論の基礎を学習し、近代社会の成り立ちについて理解すること、次に、近代社会が内包する積極的側面と消極的側面について、現在の社会問題とかかわらせて考えることである。

本授業の到達目標は、現代社会の在り方が、近代化の過程で生ずるさまざまな社会変化によって形成されてきたことを理解すること、そして社会変化とは、具体的にどのような現象であったのか理解し、現代社会の諸問題と結び付けて議論することができることとして設定した。

3 回生以上を対象とする社会学 2 は、2 回生以上を対象とする社会学 1 を履修したのちに履修する。社会学 2 の合格者は、4 回生以上を対象とする社会学 3 の履修ができる。

2021 年度の本授業は、コロナ感染予防対策のため全回数、非同期遠隔型で行った。従来の紙で配布を行っていたレジュメの内容をパワーポイント版に増補改訂し、解説音声を加え、おおむね 80 分程度のデータを Moodle に掲示するかたちで授業運営を行った。グラフや写真を鮮明に提示できる点は、パワーポイントの利点である。理解度を確認するため、3~4 回に 1 回程度、小テストやコメントを課した。

履修者数は 15 名であった。内訳は中等社会 6 名、小学校サブコース 9 名である。



成績評価は Moodle へのアクセス状況、課題の提出状況と評価をチェックしたうえで、期末試験の結果に重点を置いて行った。期末試験は配信した資料とキーワードの復習により、完全回答できる内容であった。成績は秀 7%、優 20%、良 20%、可 33%、不可 7%、評価しない 13%で分布していた。

2. 授業評価・授業研究の内容

とくに視聴覚教材を提示した第 11 回の授業について、自由記述方法で授業評価を書くよう学生に指示した。評価の高かった授業評価の一部を以下列記する。

○グローバル化が進行する現在、日本人としてのアイデンティティを大切にすることも必要であるが、様々な国籍、民族の文化を尊重することも重要である。多くの文化を受容する気持ちが必要であり、将来教員になったときには、多様な文化を受容できる子どもたちを育てていきたいと映画を通して感じた。

○主人公が日本名をずっと使用し日本語を流ちょうに話していたのでずっと日本人だと思っていたのですが「姜」という苗字で登録されていたのを見て驚いたりして一番印象に残りました。日本で生活していくうえで日本人のような名前を使っていたほうがアジア系の在日外国人にとっては生活しやすいほど、領土に生まれついで日本人の排外意識があるのだろうと考えました。

○どれほど些細な一言であっても受け取る側が差別されていると捉えればそれは差別言語になりうるのです。このような意識が今の日本には欠けているのではないかと感じます。

3. 「授業時間外学習の促進」について

Moodle のトピック欄に適時、参考文献や動画等の紹介を行った。特に動画については視聴したというリプライがいくつかあった。

4. 総括

授業の主題をより具体的に理解し、現代社会で生じている社会問題に関する学生の問題意識を触発するため、動画等視聴覚教材を豊富化していきたい。